

大谷祖廟の歴史

安藤 弥 (同朋大学)

○浄土真宗の歴史の中で「御念仏」するということ
→大谷祖廟という場の歴史的な性格・存在意義を確かめる。

〔年表〕

- 1262 弘長 2 **親鸞聖人**、御往生 (11.28)。
1272 文永 9 「大谷廟堂」成立。
1321 元亨 元 寺号「本願寺」の初見 (この年以前 (1312~) に寺院化)。**覚如上人**
1465 寛正 6 大谷本願寺、延暦寺衆徒により破却。「大谷道場」復興 (井上願知 (蓮如上人の門弟) により守護) という。**蓮如上人**
1480 文明 12 山科本願寺再興。
1532 天文 元 山科本願寺焼失、大坂へ。大谷道場も焼失・再興 (願知孫祐願による)。
1580 天正 8 大坂 (石山) 本願寺焼失 (大谷道場も先立つ 1571 焼失)。
1589 天正 17 大谷道場、妙祐 (祐願妻)・祐誓 (子) により復興 (秀吉の寺地安堵状)。
1604 慶長 9 東本願寺成立 (1602 家康より寺地寄進)。**第 12 代教如上人**
1668 寛文 8 東大谷の地を買得する。**第 14 代琢如上人**
1670 寛文 10 廟所を東大谷に移す (大谷御坊・「三基一廟」)。**《大谷祖廟の歴史的成立》**
1684 天和 4 武家墓ができる。**第 16 代一如上人**
1701 元禄 14 廟所、改葬される (御堂・諸殿整備)。**第 17 代真如上人**
1703 元禄 16 大谷御堂の移徙法要が行われる。**《現本堂の造営》**
1709 宝永 6 虎石を祖墳上に置く。**《虎石 (親鸞聖人愛翫) 伝説》**
1744 延享 元 廟所の増地につき徳川幕府と折衝する。**第 18 代従如上人**
1745 延享 2 幕府より一万坪の寄進を受ける (翌年、徳川家重より寺地安堵の判物)。
1788 天明 8 天明の大火で東本願寺両堂・諸殿焼失。**第 19 代乗如上人**が本尊等を護持し大谷御坊に退避。
1820 文政 3 大谷新道 (「御成道」…現在の下参道) を開く。**第 20 代達如上人**
1857 安政 4 大谷新道南北の畑地を買得。
1862 文久 2 大谷御坊において「親鸞六百回御遠忌」執行。表唐門 (総門) 建立。
1912 明治 45 大谷別院で「親鸞六百五十回御遠忌」執行。**第 22 代現如上人**
1952 昭和 27 大谷別院から「大谷本廟」に改称。**第 24 代闡如上人**
1953 昭和 28 本廟事務所を開設 (1961 本廟事務所を本山上局直属の本廟部とする)。
1963 昭和 38 大谷本廟で「親鸞七百回御遠忌」執行。記念として『大谷祖廟史』刊行。
1973 昭和 48 落雷で書院等焼失。3 年後に庫裏を新築。
1981 昭和 56 大谷本廟を「大谷祖廟」と改め、祖廟事務所を宗務総長の統括とする。
2010 平成 22 「親鸞七百五十回御遠忌」記念事業の一環で本堂・表唐門 (総門) 修復。

〔主要参考文献〕 細川行信『大谷祖廟史』(東本願寺、1985 年)